

実践のまとめ（第3学年 社会科）

佐渡市立佐和田中学校 教諭 渡邊 侑亮

1 研究テーマ

**知識・技能の活用を基盤とした思考力・判断力・表現力の育成
～毎時間・単元ごとのふり返りやパフォーマンス課題を通して～**

2 研究テーマについて

(1) テーマ設定の意図

学習指導要領の公民的分野の目標の（2）では、「社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察したり、現代社会に見られる課題について公正に判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。」と「思考力・判断力・表現力等」に関わるねらいを示している。

今年度から毎時間の学習課題に対する自分の考えを、ふり返りとして授業の終末に書かせることにしている。初めは、定期テストで高得点をとるような生徒でも文章にすることに苦戦していたが、数をこなしていくうちに文章量もスピードも向上してきた。文章の点検により、その日の指導や学習活動が適切なものであったかを計ることに生かすことができ、自分の授業改善につなげられるようになった。

また、単元ごとに行うパフォーマンス課題は、単元での学習成果を踏まえて課題に取組、自分の考えをまとめることで、知識や技能の活用を基盤とした思考力・判断力・表現力の育成を図ろうとするものである。

今年度から始めたこれらの取組について日々の授業の中で手応えを感じ、さらに深めていきたいと思い、研究テーマとして設定した。

(2) 研究テーマに迫るために

① 単元を貫く学習課題と毎時間の学習課題の設定

単元の学習に見通しをもたせるための手立てとして、単元を貫く学習課題を設定し、単元の学習内容を把握させる。この単元の課題＝パフォーマンス課題となり、総括的評価の材料とする。

また、毎時間の学習課題は、その時間での学びを意識させるためのものと位置づけ、授業の終末に授業内での学習活動を生かして、課題に対する自分の考えを書かせる。この記述内容から、その時間の学習活動が理解できているか、指導は適切であったかなどを見取る（形成的評価）。

② ふり返りプリントの工夫

1～2つの小単元ごとに1枚のふり返りプリントを用意し、単元の学習前・授業後・単元の学習後に自分の考えやその時間の学習内容を記述させる。学習前と学習後の記述を比較することで自分の学習の成果をふり返ることができ、授業ごとの課題に対する自分の考えもこのプリントに記述させる。

③ パフォーマンス課題

単元の学習で得た知識や技能を発揮し、それらを思考力・判断力・表現力として生かすために単元の終わりにパフォーマンス課題に取り組みさせる。

各授業でもその時間の学習活動を生かし、その時間の学習を振り返る場として、授業ごとの課題＝ミニパフォーマンス課題に取り組みせ、「知識・技能の習得→文章で表現」の一連の流れをパターン化する。

(3) 研究テーマに関わる評価

- ①定期テストの知識・技能の問題の正答率の平均が70%以上となる。
- ②全員がパフォーマンス課題に粘り強く取り組むことができる。
- ③学期末の学校評価アンケートにおいて、授業のわかりやすさについての肯定的評価が85%を超える。

3 単元と指導計画

(1) 単元名

民主政治と日本の政治（中学社会公民 教育出版）

(2) 単元の目標

- ・課題を追究したり、解決したりする活動を通して、議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方、政党の役割について理解する。
- ・民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察し、構想し、表現する。
- ・単元の学習を生かし、主体的に政治に参加し、将来の投票行動に生かそうとする。

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
議会制民主主義が政治の原則となっていること、物事の決定の際には多数決が用いられていること、政党の存在が議会制民主主義では重要なものであることを理解している。	対立と合意、効率と公正、民主主義に着目して、民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	民主政治の発展に寄与しようとする自覚をもち、国民の一人として主体的に社会に関わり、将来の投票行動に生かそうとしている。

(4) 単元の指導計画と評価計画（全7時間、本時6／7時間）

次 (時数)	学習内容	学習活動 ◎は課題	主な評価規準と方法
1 (1)	単元を貫く課題：民主政治のよりよい運営のために必要なことは何か。 また、私たちはどのように政治に関わればよいだろうか。		
	単元の学習に見通しをもつ	<ul style="list-style-type: none"> ・資料「若年層の投票率と国債発行・社会保障給付の関係」を踏まえて、単元の課題を提示する。 ・ふり返り「学習前」の記入 	主体的に学習に取り組む態度 諸資料を基に課題に対する答えを予想したり、自分の考えを表したりしようとしている。 【ふり返りプリント】
2 (1)	民主主義と多数決	◎民主政治では、物事をどのように決めているだろうか。その際に注意しなければならないことは何か。	知識・技能 民主主義と多数決を関連させながら理解している。 【ふり返りプリント】
3 (1)	国民の代表を選ぶ選挙	◎「小選挙区比例代表制」とはどのような制度か。また、その制度を導入した理由は何だろうか。	知識・技能 小選挙区と比例代表制のメリット・デメリットについて、諸資料を活用して理解している。 【ふり返りプリント】

4 (1)	願いを叶える政党政治	◎政党は何のために存在し、どんな役割を担っているのだろうか。	知識・技能 諸資料を活用し、政党の目的と役割を理解している。【ふり返しプリント】
5 (1)	マスメディアと政治	◎世論とマスメディアは、政治にどのような影響を与えるのだろうか。	思考・判断・表現 対立と合意、効率と公正などに着目して、マスメディアと自分との関わりについて多面的・多角的に考察している。【ワークシート】
6 (1) 本時	パフォーマンス課題	◎民主政治のよりよい運営のために必要なことは何か。また、私たちはどのように政治に関わればよいのだろうか。	思考・判断・表現 これまでの学習を生かしながら課題解決に向けて多面的・多角的に考察し、自分の意見を述べている。【ワークシート】
7 (1)	単元のまとめ	・単元問題に個人や班で取り組む。 ・ふり返しプリント（学習後）の記入	主体的に学習に取り組む態度 単元の学習を通して、自分の何がどのように変わったかなどについて具体的に述べようとしている。【ワークシート】

4 単元と生徒

(1) 単元について

この単元は、学習指導要領の公民的分野における大項目の「C 私たちと政治」の中項目「(2) 民主政治と政治参加」の部分である。その中では、「イ 地方自治や我が国の民主政治の発展に寄与しようとする自覚や住民としての自治意識の基礎を育成することに向けて、次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること」として、「(ア) 民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現すること」を目標としている。

有権者となる18歳を3年後に控え、どのように政治に関われば良いのかという問いについて自分の考えを深めることで、政治に参加する権利を行使する良識ある主権者として、主体的に政治に参加することについての自覚を養いたい。

(2) 生徒の実態

授業を行うクラスは、3年生33名で、調べ学習や話し合い活動に意欲的に取り組む生徒が多く、私語も少なく良い雰囲気での授業を行うことができている。1年時の途中からノートに板書を写す形を取っていたが、特別支援学級生徒や書くことが苦手な生徒を意識して板書プリントを用意し、書く内容を焦点化したことで、授業に集中する生徒が増えた。

昨年度の2学期末の学校評価アンケートでは、授業のわかりやすさについて、肯定的評価が学年で92.1%となった。一昨年度の同時期の81.5%を10ポイント以上も上回っており、その要因の1つとして、板書プリントを用意し、書く内容を焦点化したことで、話し合ったり、考えたりする時間が増えたことが考えられる。

5 本時の展開（令和4年11月4日実施）

(1) ねらい

- ・単元の学習内容をふり返し、それを活用しながら単元を貫く課題「民主政治のよりよい運営のために必要なことは何か。また、私たちはどのように政治に関わればよいだろうか。」について、自分の考えをまとめ、表現する。

(2) 展開の構想

- ・単元のこれまでの学習を生かすために、パフォーマンス課題に取り組む際には、教科書、ノート、資料集など何を見て取り組んでもよいこととする。
- ・学力、意欲低位の生徒でも取り組めるよう、班での話し合い活動を先に行い、課題に取り組むためのきっかけとする。
- ・思考ツールを用いることで、新たな視点から課題を考え、思考の深まりを促す。

(3) 展開

時間 (分)	学習活動	教師の働き掛け 予想される児童（生徒）の反応	□評価 ○支援 ◇留意点
3分	課題の確認	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>◎民主政治のよりよい運営のために必要なことは何か。 また、私たちはどのように政治に関わればよいのだろうか。</p> </div>	
15分	これまでの学習内容について、思考ツールを使って自分の考えをまとめる	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の前半部分について、これまでの学習内容から重要と思われる事柄を書き出してみよう。 多数決 議会制民主主義 選挙の原則 選挙に行くこと 政党 マスメディア 世論 一票の格差 選挙権 ・書き出したものをランキングにしてみよう。 <div style="text-align: center;"> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書・ノート・ふり返りプリントなどで確認させる。 ◇重要度で上位にしたものについて、根拠を考えながら活動させる。
10分		<ul style="list-style-type: none"> ・自分のランキングについて根拠を踏まえて発表し、班でのランキングを作ろう。 多数決が無いとものごとが決まらないから。 選挙に行かないと自分たちの考えが反映されないから。 マスメディアがあるから政治の動きを知ることができるから。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">思・判・表</div> 自分がまとめたランキングについて、理由を踏まえて発表できている。【観察】
7分		<ul style="list-style-type: none"> ・他の班のランキングの上位を確認し、班に戻ったときに発表しよう。 	◇偏りがないように確認する班を班の中で決めさせる。
15分	課題に対する自分の考えを書く	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の学習やここまでの学習活動を意識して書くよう指導する。 ・机間巡視をしながら、記入が進まない生徒に声をかける。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">思・判・表</div> 多面的・多角的に考察し、自分の意見を述べている。 【ワークシート】

(4) 評価

- ・単元を貫く課題の1つ目について、思考ツールを用いて自分の考えをまとめ、根拠を述べながら発表できているか。(思考・判断・表現)
- ・単元を貫く課題の2つ目について、これまでの学習成果を踏まえ、自分の考えを述べる事ができているか。(思考・判断・表現)

6 実践を振り返って

(1) 授業の実際(指導の実際)

① 単元のふり返りプリント(OPP)の活用(第1次~5次)

1 民主政治と日本の政治		単元の課題	民主政治のよりよい運営のために必要なことは何か。 また、私たちはどのように政治に関わればよいだろうか。			年 組 番 名 前	
学習前	①	/ () 自己評価	②	/ () 自己評価	③	/ () 自己評価	学習後
直接民主制と間接民主制のちがいは?	ねらいの達成度、自分の取組状況→ ○今日の授業のキーワード	A・B・C	ねらいの達成度、自分の取組状況→ ○今日の授業のキーワード	A・B・C	ねらいの達成度、自分の取組状況→ ○今日の授業のキーワード	A・B・C	直接民主制と間接民主制のちがいは?
小選挙区比例代表制ってどんな制度?	○課題に対する自分の考え・感想		○課題に対する自分の考え・感想		○課題に対する自分の考え・感想		小選挙区比例代表制ってどんな制度?
「一票の格差」とは?	④	/ () 自己評価	⑤	/ () 自己評価		/ () 自己評価	「一票の格差」とは?
政党が果たす役割とは何か。	ねらいの達成度、自分の取組状況→ ○今日の授業のキーワード	A・B・C	ねらいの達成度、自分の取組状況→ ○今日の授業のキーワード	A・B・C	ねらいの達成度、自分の取組状況→ ○今日の授業のキーワード	A・B・C	政党が果たす役割とは何か。
マスメディアと政治はどう関わっているか。	○課題に対する自分の考え・感想		○課題に対する自分の考え・感想		○課題に対する自分の考え・感想		マスメディアと政治はどう関わっているか。

本単元では、上記のふり返りプリントを使用した。毎時間の展開で知識・技能を着実に習得し、終末のふり返りで課題に対する自分の考えを記述することを通して、学習内容の定着を図ろうとするものである。第1次で単元の課題の確認と「学習前」の記入を行い、単元の学習に対する見通しをもたせた。第2次~第5次の学習課題について、生徒は各時間で得た知識や技能を基に、それぞれの記入欄に自分の考えを記入した。

② パフォーマンス課題(第6次)

単元の学習で得た知識・技能を生かし、思考力・判断力・表現力をはたらかせるために、単元の課題に対する自分の考えを述べる活動として設定した。単元の課題の1つ目「民主政治のよりよい運営に必要なことは何か。」については、思考ツールを用いて学習活動を行い、単元の学習をまとめたり、まとめたものを仲間に伝えたりする姿が多く見られた。課題の2つ目「私たちはどのように政治に関わればよいのだろうか。」については、自分の考えを書く場面を設定し、単元の学習内容や本時のグループ活動を踏まえて、全員が自分なりの考えを書いていた。

単元の課題「私たちはどのように政治に関わればよいのだろうか。」
の生徒の解答例

私たちがこれから民主政治と関わっていく上でできることは、投票することくらいしかないと思います。紙を一枚書いて投票する、小さなことで「けど」みんながやれば「今政治で起きている問題が解決することになります。平等な政治を行うために、「一票の格差」をなくす取組や、小選挙区比例代表並立制などが行われています。みんなの意見が反映されているように見えて、もちろん反映されないものもあります。その、反映されないものをいかに少なくするの、それがこれからの課題でもあります。私は、あと3年で選挙に行くことかできます。最初は行くけど、2~3年たつと行かなくなることも多いみたいです。でも、私は毎年行つて、自分にも呼びかけ、「今後の政治を次の世代が決める」世の中にしてほしいです。

私たちは、常に関心を持ちつつ、「判断する」ということを忘れずにあるべきだと思います。この民主主義の世の中において、選挙で代表を選ぶのは貴重な意見反映の場である。にも関わらず若者の投票率が低かったり、政治候補者への興味が無いのは実は、たいてい事だろう。また、少なからず死票も選挙には存在していて、国民の意見を集め切るのも難しい。だからこそ、まずは関心を持つべきだ。この単元で学習するまで、私は何も知らなかったし、興味もなかった。そんな私でも、学習後の今は政治(と政党)に興味がある。少しでもメディアの政治情報を見てみることで、日常に取り入れてみたい。ニュースで選挙の情報が流れていたら少し意識をしてみるとか、「この政党は何を目指しているのだろうか」とか疑問を調べてみるとか、思いついた時でいいと思う。幸いにも、インターネットが普及し、便利になった今の世の中では、こういった行動は簡単であろう。「日本の主権者は国民である」ということを忘れず、自ら考え、日常の一部に「政治」を置いていきたい。

(2) 研究テーマに関わって

- ① 定期テストの知識・技能の問題の正答率について、11月実施の期末テストでは、知識・技能の問題の正答率は学年平均で66%であった。クラス・生徒は異なるが、前年度の担当クラス(3年)の同じ範囲でのテストでは、知識・技能の正答率が54%であった。毎時間の終末に授業内容をふまえて課題に対する自分の考えを書かせたり、学習内容を振り返ったりする時間をしっかりととったことの効果があったと考えられる。
- ② パフォーマンス課題については、本時で授業を行ったクラスも他のクラスもともに、参加した生徒の多くが課題に対して粘り強く取り組むことができた。回収したプリントの文章量や内容からじっくりと時間をかけて取り組むことができたかと推測される。ただし、各クラス1, 2名の生徒が授業に出ていたにも関わらず、未回答だったり未提出だったりした。あらかじめ予想できたことなので、ターゲットを絞り、机間支援を行うことが必要であった。

- ③ 2学期末の学校評価アンケートの結果、授業のわかりやすさについての肯定的評価は、本時のクラスが93.3%、もう一方のクラスが80.6%、3年全体で86.9%となった。同じ内容の授業をしているにも関わらず、2つのクラスでこのような差が生じた原因について、今後実施するNRTの結果などを踏まえて検証し、わかりづらさを感じる生徒への対応や指導の工夫に生かしたい。

(3) 今後の課題

① 単元の課題・パフォーマンス課題の設定について

「民主政治のよりよい運営のために必要なことは何か。」という問いが漠然としていて、原則や事象について考えれば良いのか、具体的な行動について考えれば良いのかの線引きが曖昧であった。実際、生徒の記述を見てみると、学習した概念やしくみ・制度を挙げて説明する生徒と、自分事として行動や意識のもち方について説明する生徒がいた。

前時までの学習と本時のパフォーマンス課題までの単元計画については、ある程度つながりがあり、パフォーマンス課題を単元の学習の総括として位置づけて取り組むことができた。しかし、本時のパフォーマンス課題に係る2つの学習活動については、つながりや関連性が見えなかった、薄かった、という指摘を受けた。個人や班で民主政治に必要なことを考える活動と、終末に、自分がどのように政治に関わるかについて自分の考えを述べる活動と、2つの異なる問いについての活動を設定したが、問いを1つにしぼって焦点化すべきだったかどうかも含めて、単元の学習をさらに生かすためにはどのような課題設定をすれば良かったか、どのような活動を行えば良かったかを検討していきたい。

対話的で深い学びの実現のためには、課題の設定が重要となるので、じっくりと時間をとり、しっかりと吟味して検討したい。

② 思考ツールの活用について

今回使用したピラミッドランキングは、以前、歴史的分野「冷戦後の世界と日本」の単元でのパフォーマンス課題でも使用しており、その際の生徒の活動の様子からある程度の手応えを感じていた。しかし、ランキングで優先順位を考えることが果たして今回の課題や活動に合っていたかどうか、このツールの良さを生かすきれていたかは、疑問が残る。個人、各班の意見や発言をつなげ、多面的・多角的な見方で学びを深めていくために、どのような思考ツールを使えば良いのかについて、今後も研修を重ねていく。

〈引用・参考文献〉

- ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』平成29年
- ・国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（中学校社会）』令和2年
- ・東北大学スマート・エイジング・カレッジHP『若年世代の投票率、1%低下で年7.8万円の損？吉田 浩 教授が試算』
<https://www.sairct.idac.tohoku.ac.jp/lecturer/media/8594/>（参照2023-01-16）
- ・中野英水『パフォーマンス課題を位置づけた中学校公民の授業プラン&ワークシート』明治図書、2021
- ・澤井陽介、加藤寿朗『見方・考え方 社会科編』東洋館出版社、2017
- ・田村学『深い学びを育てる思考ツールを活用した授業実践』小学館、2018